

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106621		
法人名	社会福祉法人 一寿会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう館		
所在地	岡山市南区小串716-2		
自己評価作成日	令和 6 年 6 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境、四季の流れを肌で感じ取れるゆっくりとした時間の流れと、家族的な雰囲気大切に、個々の自立した日常生活を過ごせるように手助けします。優しく責任を持った援助と統一された処遇の実践を目指します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=3370106621-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 6 月 19 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな緑に囲まれた施設玄関わきには鶏小屋があり、毎朝元気な目覚めの鳴き声に合わせ、利用者同士「おはよう。リビングへ一緒に行きましょう」の言葉かけが合言葉となり1日が始まる。訪問した際には、「お兄ちゃん。よく来てくれたね」と心温まる言葉を頂いた。利用者全員が1日をリビングで過ごしていて、利用者、職員共に和気藹々とした雰囲気が漂っていた。午前中はティータイムやレクリエーション活動を行い、午後からは歌のDVDを流してニュースを観るのが日課となっている。今年度より、面会や外出が可能で、家族との交流が持てるようになり、利用者はより充実した日々を送っている。地域との関わりも大切にしてい、散歩の際に出会った方と手を振って挨拶をかわし、野菜の差し入れを頂くこともある。地域の方から頂いた野菜が食卓を彩り、3食手作りで利用者の味覚にあった家庭的な味となっていて、利用者からは「美味しい」や「お兄ちゃん、食べさせてあげようか」と優しい言葉が聞けた。職員の勤続継続率も高く、利用者の心身の状態や生活全般に気配りをしている、自立した日を送れるように寄り添った介護をしている。半数以上の方が、排泄時には付き添いなしでトイレに行ける状態を保っている。職員の心のゆとりが利用者に伝わり、施設全体にアットホームな雰囲気が形成されている。帰り際に利用者は温かく手を振ってくれた姿が印象に残った。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホールに事業所理念を掲げ、職員をはじめ入居者、来客の方々にも理念の共有・実践につなげています。	理念は玄関、事務所、厨房に掲示していて、職員が出勤時に理念を確認できるように、目に触れるところに掲示している。職員は「福祉は人なり」の精神を常に念頭に置き、日々の介護に徹している。心の繋がりを大切にしている、アットホームな雰囲気作りを理念に擦り合わせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が、野菜・お花を届けてくれます。又、日常的な散歩など地域の方と挨拶を交わしたり、立ち話をします。	理事長が地域の住民なので、町内会には加入して地域の情報が定期的に入ってくる。清掃活動は理事長も参加している。地域で畑をされている方から、新鮮な旬の野菜が提供され食卓を彩っている。犬の散歩や業者の方と出会った際には、挨拶を交わす関係ができています。	地域との関りを今以上に深めてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方々とのふれあいや、受け入れができていない。今後徐々に受け入れをしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族間の情報交換にもなっていると思います。ご家族の思いを踏まえ、私達の反省点にもなっています。	コロナ5類以降は対面で実施できている。法人内の3施設合同で、家族、後見人の方、施設の管理者と統括、地域包括が参加している。利用者情報、イベント報告、ヒヤリハット、事故報告は細かく説明していて、地域包括からはお褒めの言葉を頂き、職員の励みとなった。	新たな会議の参加メンバーを増やせるように工夫してみたいはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	時間の許す限り介護保険課(市)福祉事務所への書類等は、郵送ではなく持参することにより、情報伝達事項を直接話し合う機会も作っています。	窓口の基本は統括だが、管理者が窓口となる場合もある。得た情報は統括から直接口頭で聞いている。緊急を要する場合は、管理者専用のSNSでやり取りをしている。事務職員が連絡のやり取りをすることもある。現在は、入居者に関する情報交換を主に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほぼ実践できていると思います。特に管理者会議では常に話し合っており、他職員には身体拘束をしないケアの実践をしています。	身体拘束委員会は3施設合同で開催し、各棟の報告や対策について話し合った。年1回、身体拘束についての勉強会や3ヶ月に1回、チェック表を活用して意識を高めている。事例参考にした意見交換、身体拘束への気づき、適正化についての話し合い、レポートの提出にて、より知識を深められるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に関する研修等に参加したり、関連資料は全員が把握できるよう回覧しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修参加資料、本を活用するように伝達しています。又、入居者で制度を利用している方もあり、支援者と話し合うことにより学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どんな事柄にも、話ができる雰囲気心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	インターネットの活用やご意見箱を設置しています。	家族からの要望により、居室での面会や家族と一緒に外出が可能となった。1ヶ月に1回「ゆうゆう通信」を発行し、手書きのメッセージを添えて渡すことで、家族からの信頼を得ている。利用者の要望を聞いて、家族に伝えたり、施設で準備できるものは準備するようにしている。家具は、利用者の意見を参考にして、安全面を考慮して配置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見までは出ていないのが現状ですが、職員の意見、提案は話し合いを行っています。	今まで管理者がチェックしていた事務作業を職員個人に変更したら、作業効率が上がった。細かい休日の調整は管理者が行っていて、職員の有給や希望休の取得にも繋がっている。職員間の仲も良く、何でも話し合える雰囲気となっていて、見たり聞いたりしたことが、すぐに管理者に伝わるので助かっている。出た意見はカンファレンスでまとめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用管理責任者講義に参加しています。個々の努力、実績、資格取得に勤務状況の把握をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	個々に職員に合った研修を行っています。又、内 外の研修案内が分かりやすいよう表示して、行き たい研修には援助体制があります。ホーム内研修 を施行することで、徐々に実績を上げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	個人的に情報交換、訪問等を行っています。代表 者は管理者、職員が同業者と交流することに援助 してくれます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を中心に、ご本人の要望を正しく汲み取るよ うに心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	相手の立場に立った援助と話し合いが出来る雰 囲気作りに心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	傾聴を中心に生活歴、経済面等々、相手の立場に 立った支援に心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを大切に、ご本人の思考に合った援 助、声かけに意欲をもってもらえるように心がけて います。共に楽しみ、共に悩みを共有することが出 来るように援助します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、知人の方々に来所しやすい雰囲気作りに心がけ、職員たちにも気持ちよい対応をと話し合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者に来客がある場合、一緒に過ごして頂く為、その人に合った援助をしています。また、家族・知人の方々と絆を大切に、年賀状・手紙等の援助を行っています。	毎朝リビングに出る際に、利用者同士で「おはよう。一緒に行きましょう。」と言葉を掛けるくらい仲が良い。リビングの隣の席の人が馴染みとなり、落ち着いて安心した生活ができています。ムードメーカーの利用者さんがいて、施設全体が和んでいる。コロナが落ち着いてきたので、居室での面会や家族との外出も可能となった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションでは、全員に声を掛け、参加してもらっています。一人ひとりが孤立することなく過ごせるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族、ご本人の負担にならない程度、必要に応じて経過をフォローし相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ち、自己決定を一番に大切な思いとして援助しています。	入居時のフェイスシートや基本情報提供書も参考にしている。意見を言われる利用者が多く、できる範囲で叶えられるようにしている。思いを伝えられない方へは、寄り添いながら問いかけるようにしている。帰宅願望の強い方へは、落ち着いて頂ける雰囲気です話したり、作業をしたりすることで安心感をもたらし、納得して頂けるまで、話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	深く立ち入れないこともありますが、ご本人の過ごしてこられた暮らし方、生活歴等々傾聴を中心に把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の場で解っているつもりでも違っていることが多くあります。言動、顔付、行動等での把握も含め、問題行動の原因をさぐることに心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族との話し合う機会の少ない方々は困難な場合が多いが、意見やアイデアは反映できるよう努力していきたいです。	介護計画は、入居時に暫定プランを立て、何もなければ3ヶ月、6ヶ月毎に更新している。モニタリングは、半年毎に見直しをしている。プランは、ドクターや家族の意見も聞いた上で作成している。解決すべき課題を明確にして、援助目標や計画内容に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題が発生すれば、即対応できるよう工夫すると共に、個別記録・連絡帳に記入し、職員全員が理解でき、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット会議において色々な意見や参考資料で検討すると共に、職員に回覧し問題意識として共有します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の四季の行事、お花見、盆踊り、獅子舞、秋祭り、紅葉ドライブ等の行事はコロナ禍で控えていましたが、今後地域の行事の出席も考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも相談できる主治医がいます。月2回、訪問診療及び往診にも応じてもらっています。又希望があれば、どの医療機関の受診援助体制もあります。	かかりつけ医は、入居時に選べるが、全員が転医している。24時間365日の対応となっている。ドクターはほぼ毎日来られているので、職員は安心して任せることができている。今年度より、月1回の訪問歯科があり、1～3ヶ月に1度の口腔ケアも行っている。他科への受診は、提携のドクターの指示を仰ぎ、基本は職員が連れていき、家族に報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	問題発生時、相談・対応ができます。又、介護者も状況を正しく判断できるように観察力を身に付けるよう努力しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の情報交換は、密に出来るよう時間の許す限り、入院先の病院へ来院して、今後の対応を把握するように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ来るであろう重度化や終末期のあり方について、ご家族が集まる運営推進会議に課題として取り上げています。又、ご本人の状況において、ご家族と話し合いを行っています。	看取りは基本実施していない。入居時に重要事項説明書にて確認をしている。要介護が3以上になった際には、早めに他施設を確認し、利用者にとってより良い生活環境となるように配慮している。重度化した場合には、医療関係と相談して、今後の動きを模索している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内や外部の研修会へ参加することで、急変や事故発生時に備えています。又マニュアル、連絡網等が何時でも見えるように所定の場所に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網対策を表示し、火災に関して年に2回の避難訓練の実施をしています。又、全管理者が防火管理者資格を持ち、資料は全員に伝達しています。	年2回昼夜想定で火災・地震津波の避難訓練を実施した。実際に簡易トイレの使用や非常食の試食も行った。緊急連絡網は事務所と厨房、ハザードマップは事務所に掲示している。備蓄は、施設の隣にある研修所に一括保管している。賞味期限間近の物は、利用者と一緒に食して、フードロスなくしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関する書に職員全員に誓約書に捺印、署名を交わしています。尊重を損ねない対応に心がけています。	呼称は苗字に「さん」付け。反応がいい場合には、フルネームで呼ぶこともある。年1回、法令順守の勉強会にて、施設の規則や社会のルールの確認を行っている。居室に入るときは、必ずノックをして、「失礼します」と言葉掛けをしている。排泄失敗時には、他の職員と連携して、自尊心を気づけけない言葉掛けをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな自己決定も見逃さないよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日をどのように過ごしたいか希望に添った援助に心がけ気付きとしています。又、意思表示できない方には、特に目配り、気配り、心配りを配慮します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくすごせるように支援しています。訪問理美容をお願いしたり、希望があれば職員が散髪を行い、信頼関係を深めるよう役立てています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜を取り入れたり、ご利用者の意見を参考に献立を立てます。イベント、誕生会には特別メニューで喜ばれています。	食事は三食手作り。メニューを毎日手書きしたり、口頭で伝えたりしている。利用者一人ひとりに合わせた形状にして、塩分を調整しているので残食はなく、おかわりを希望する方もいる。食事中はBGMを流していて、ゆったりと落ち着いた雰囲気、利用者からは「美味しい」の一言が聞けた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の摂取量は、その人に合った状態を把握しています。又やわらかいもの、細く刻み、とろみを付けその人に合った調理方法をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがい、手洗い等援助を行っています。義歯洗浄剤にて殺菌を行い、口肉炎、歯肉炎等の発生を防いでいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導の他に、その人々に合った声掛けや誘導を行い、排泄による失敗の軽減を図ります。	排泄チェック表を活用し、便が出てない方へは、牛乳や薬、運動でコントロールするようにしている。立ち歩いた際に、さりげなくトイレ誘導を行ったり、歯磨きの際に、連れて行ったりするように工夫している。トイレの時間も長めにゆっくりと座って頂くように配慮していて、自分からトイレへ行かれる方も半数以上おられる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で職員全員が把握して適切に行っています。意思表示が出来ない方は、排泄チェック表を見ながら、飲食物の工夫を行ったり、腹部マッサージを行い、自然排泄を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングや楽しめる工夫をしています、個々で曜日、時間帯に合わせた支援はできていません。	週2～3回の提供。入浴を拒否される方へは、日時を変えて対応し、「一緒にいいところこう」や「ニューヨークへ行ってお土産買って来よう」と言葉掛けたり、職員が草津温泉の歌を口ずさんだりして誘導している。入浴時間は平均で30分程度。入浴中に普段会話が少ない方が、開放的になり雑談で盛り上がることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、休息に関してご本人の気持ち、思いに配慮できるよう心がけています。体に乾燥肌、発疹等があり、電気毛布が使えない方、湯たんぽを使用してもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬、説明書を職員全員が把握できるように配置しています。個人の服用中の薬、説明書はいつでも解かるように所定の場所に置いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やより多く楽しみごとを見付けられるよう心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の要望、その人に合った外出支援を行っています。法事、墓参り、外食等ご家族と協力して行われています。(コロナ禍では中止していましたが、R6.6より外出制限を解除しています)	毎日の散歩が日課となり、気候の良い日には、ベンチで日向ぼっこをされる方もいる。コロナ5類以降は、家族との外出も可能になった。秋には、自然環境公園へドライブへ行き、紅葉を鑑賞した。春には、近隣の並木道へ足を運び、満開の桜を鑑賞して、おやつを食べた。家族の方も一緒に参加できて喜んで頂けた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望でお金の所持、買物等は支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望で、自由に電話、手紙等の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生け、居心地のよい空間づくりに心がけ湿度・温度には、快適に過ごせるよう、見えよいところに貼り付けています。	リビングには、アジサイの作品が飾られていて季節感を味わえるようにしている。利用者の写真を飾ることで、アットホームを演出している。テレビ、クロスワード、読書、編み物、お手玉、日記を書いて自分の好きな時間を過ごしている。午前中は、ティータイムとレクリエーション活動、午後は歌のDVDを流してニュースを観るのが日課となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	穏やかにのんびりとすごせるように心がけ、音楽を流したりしています。長椅子に座り、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に慣じみの品物を持参下さるように説明します。茶碗、箸、お椀、コップは、ご本人に気に入ったものを持参願います。	ベッド、エアコン、カーテン、クローゼットが備え付け。仏壇や家族の遺影を飾り、毎日お祈りをして家族を忍んでいる。家族の手作りフォトフレームを大切に飾っている方もいた。居室では、テレビや読書をしたり、日記やお化粧をしたりしている方もいる。家族との外出に向けて、服のしわを丁寧にのばしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合った環境づくりに心がけています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370106621		
法人名	社会福祉法人 一寿会		
事業所名	グループホーム ゆうゆう館		
所在地	岡山市南区小串716-2		
自己評価作成日	令和 6 年 6 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境、四季の流れを肌で感じ取れるゆっくりとした時間の流れと、家族的な雰囲気大切に、個々の自立した日常生活を過ごせるように手助けします。優しく責任を持った援助と統一された処遇の実践を目指します。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370106621-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 6 月 21 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな緑に囲まれた施設玄関わきには鶏小屋があり、毎朝元気な目覚めの鳴き声に合わせ、利用者同士「おはよう。リビングへ一緒に行きましょう」の言葉かけが合言葉となり1日が始まる。訪問した際には、「お兄ちゃん。よく来てくれたね」と心温まる言葉を頂いた。利用者全員が1日をリビングで過ごしていて、利用者、職員共に和気藹々とした雰囲気が漂っていた。午前中はティータイムやレクリエーション活動を行い、午後からは歌のDVDを流してニュースを観るのが日課となっている。今年度より、面会や外出が可能で、家族との交流が持てるようになり、利用者はより充実した日々を送っている。地域との関わりも大切にしてい、散歩の際に出会った方と手を振って挨拶をかわし、野菜の差し入れを頂くこともある。地域の方から頂いた野菜が食卓を彩り、3食手作りで利用者の味覚にあった家庭的な味となっていて、利用者からは「美味しい」や「お兄ちゃん、食べさせてあげようか」と優しい言葉が聞けた。職員の勤続継続率も高く、利用者の心身の状態や生活全般に気配りをしている、自立した日を送れるように寄り添った介護をしている。半数以上の方が、排泄時には付き添いなしでトイレに行ける状態を保っている。職員の心のゆとりが利用者に伝わり、施設全体にアットホームな雰囲気が形成されている。帰り際に利用者は温かく手を振ってくれた姿が印象に残った。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、ホールに事業所理念を掲げ、職員をはじめ入居者、来客の方々にも理念の共有・実践につなげています。	理念は玄関、事務所、厨房に掲示していて、職員が出勤時に理念を確認できるように、目に触れるところに掲示している。職員は「福祉は人なり」の精神を常に念頭に置き、日々の介護に徹している。心の繋がりを大切にしている、アットホームな雰囲気作りを理念に擦り合わせている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が、野菜・お花を届けてくれます。又、日常的な散歩など地域の方と挨拶を交わしたり、立ち話をします。	理事長が地域の住民なので、町内会には加入して地域の情報が定期的に入ってくる。清掃活動は理事長も参加している。地域で畑をされている方から、新鮮な旬の野菜が提供され食卓を彩っている。犬の散歩や業者の方と出会った際には、挨拶を交わす関係ができています。	地域との関りを今以上に深めてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の方々とのふれあいや、受け入れができていない。今後徐々に受け入れをしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族間の情報交換にもなっていると思います。ご家族の思いを踏まえ、私達の反省点にもなっています。	コロナ5類以降は対面で実施できている。法人内の3施設合同で、家族、後見人の方、施設の管理者と統括、地域包括が参加している。利用者情報、イベント報告、ヒヤリハット、事故報告は細かく説明していて、地域包括からはお褒めの言葉を頂き、職員の励みとなった。	新たな会議の参加メンバーを増やせるように工夫してみたいはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	時間の許す限り介護保険課(市)福祉事務所への書類等は、郵送ではなく持参することにより、情報伝達事項を直接話し合う機会も作っています。	窓口の基本は統括だが、管理者が窓口となる場合もある。得た情報は統括から直接口頭で聞いている。緊急を要する場合は、管理者専用のSNSでやり取りをしている。事務職員が連絡のやり取りをすることもある。現在は、入居者に関する情報交換を主に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ほぼ実践できていると思います。特に管理者会議では常に話し合っており、他職員には身体拘束をしないケアの実践をしています。	身体拘束委員会は3施設合同で開催し、各棟の報告や対策について話し合った。年1回、身体拘束についての勉強会や3ヶ月に1回、チェック表を活用して意識を高めている。事例参考にした意見交換、身体拘束への気づき、適正化についての話し合い、レポートの提出にて、より知識を深められるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法に関する研修等に参加したり、関連資料は全員が把握できるよう回覧しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修参加資料、本を活用するように伝達しています。又、入居者で制度を利用している方もあり、支援者と話し合うことにより学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	どんな事柄にも、話ができる雰囲気心がけています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	インターネットの活用やご意見箱を設置しています。	家族からの要望により、居室での面会や家族と一緒に外出が可能となった。1ヶ月に1回「ゆうゆう通信」を発行し、手書きのメッセージを添えて渡すことで、家族からの信頼を得ている。利用者の要望を聞いて、家族に伝えたり、施設で準備できるものは準備するようにしている。家具は、利用者の意見を参考にして、安全面を考慮して配置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見までは出ていないのが現状ですが、職員の意見、提案は話し合いを行っています。	今まで管理者がチェックしていた事務作業を職員個人に変更したら、作業効率が上がった。細かい休日の調整は管理者が行っていて、職員の有給や希望休の取得にも繋がっている。職員間の仲も良く、何でも話し合える雰囲気となっていて、見たり聞いたりしたことが、すぐに管理者に伝わるので助かっている。出た意見はカンファレンスでまとめている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用管理責任者講義に参加しています。個々の努力、実績、資格取得に勤務状況の把握をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	個々に職員に合った研修を行っています。又、内 外の研修案内が分かりやすいよう表示して、行き たい研修には援助体制があります。ホーム内研修 を施行することで、徐々に実績を上げています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	個人的に情報交換、訪問等を行っています。代表 者は管理者、職員が同業者と交流することに援助 してくれます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴を中心に、ご本人の要望を正しく汲み取るよ うに心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	相手の立場に立った援助と話し合いが出来る雰 囲気作りに心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	傾聴を中心に生活歴、経済面等々、相手の立場に 立った支援に心がけています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の思いを大切に、ご本人の思考に合った援 助、声かけに意欲をもってもらえるように心がけて います。共に楽しみ、共に悩みを共有することが出 来るように援助します。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、知人の方々に来所しやすい雰囲気作りに心がけ、職員たちにも気持ちよい対応をと話し合っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者に来客がある場合、一緒に過ごして頂く為、その人に合った援助をしています。また、家族・知人の方々と絆を大切に、年賀状・手紙等の援助を行っています。	毎朝リビングに出る際に、利用者同士で「おはよう。一緒に行きましょう。」と言葉を掛けるくらい仲が良い。リビングの隣の席の人が馴染みとなり、落ち着いて安心した生活ができています。ムードメーカーの利用者さんがいて、施設全体が和んでいる。コロナが落ち着いてきたので、居室での面会や家族との外出も可能となった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションでは、全員に声を掛け、参加してもらっています。一人ひとりが孤立することなく過ごせるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族、ご本人の負担にならない程度、必要に応じて経過をフォローし相談にのっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ち、自己決定を一番に大切な思いとして援助しています。	入居時のフェイスシートや基本情報提供書も参考にしている。意見を言われる利用者が多く、できる範囲で叶えられるようにしている。思いを伝えられない方へは、寄り添いながら問いかけるようにしている。帰宅願望の強い方へは、落ち着いて頂ける雰囲気です話したり、作業をしたりすることで安心感をもたらし、納得して頂けるまで、話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	深く立ち入れないこともありますが、ご本人の過ごしてこられた暮らし方、生活歴等々傾聴を中心に把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の場で解っているつもりでも違っていることが多くあります。言動、顔付、行動等での把握も含め、問題行動の原因をさぐることに心がけています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族との話し合う機会の少ない方々は困難な場合が多いが、意見やアイデアは反映できるよう努力していきたいです。	介護計画は、入居時に暫定プランを立て、何もなければ3ヶ月、6ヶ月毎に更新している。モニタリングは、半年毎に見直しをしている。プランは、ドクターや家族の意見も聞いた上で作成している。解決すべき課題を明確にして、援助目標や計画内容に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	問題が発生すれば、即対応できるよう工夫すると共に、個別記録・連絡帳に記入し、職員全員が理解でき、実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ユニット会議において色々な意見や参考資料で検討すると共に、職員に回覧し問題意識として共有します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の四季の行事、お花見、盆踊り、獅子舞、秋祭り、紅葉ドライブ等の行事コロナ禍で控えていましたが、今後地域の行事の出席も考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	いつでも相談できる主治医がいます。月2回、訪問診療及び往診にも応じてもらっています。又希望があれば、どの医療機関の受診援助体制もあります。	かかりつけ医は、入居時に選べるが、全員が転医している。24時間365日の対応となっている。ドクターはほぼ毎日来られているので、職員は安心して任せることができている。今年度より、月1回の訪問歯科があり、1～3ヶ月に1度の口腔ケアも行っている。他科への受診は、提携のドクターの指示を仰ぎ、基本は職員が連れていき、家族に報告している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	問題発生時、相談・対応ができます。又、介護者も状況を正しく判断できるように観察力を身に付けるよう努力しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時の情報交換は、密に出来るよう時間の許す限り、入院先の病院へ来院して、今後の対応を把握するように努めます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	いずれ来るであろう重度化や終末期のあり方について、ご家族が集まる運営推進会議に課題として取り上げています。又、ご本人の状況において、ご家族と話し合いを行っています。	看取りは基本実施していない。入居時に重要事項説明書にて確認をしている。要介護が3以上になった際には、早めに他施設を確認し、利用者にとってより良い生活環境となるように配慮している。重度化した場合には、医療関係と相談して、今後の動きを模索している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内や外部の研修会へ参加することで、急変や事故発生時に備えています。又マニュアル、連絡網等が何時でも見えるように所定の場所に置いています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網対策を表示し、火災に関して年に2回の避難訓練の実施をしています。又、全管理者が防火管理者資格を持ち、資料は全員に伝達しています。	年2回昼夜想定で火災・地震津波の避難訓練を実施した。実際に簡易トイレの使用や非常食の試食も行った。緊急連絡網は事務所と厨房、ハザードマップは事務所に掲示している。備蓄は、施設の隣にある研修所に一括保管している。賞味期限間近の物は、利用者と一緒に食して、フードロスなくしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に関する書に職員全員に誓約書に捺印、署名を交わしています。尊重を損ねない対応に心がけています。	呼称は苗字に「さん」付け。反応がいい場合には、フルネームで呼ぶこともある。年1回、法令順守の勉強会にて、施設の規則や社会のルールの確認を行っている。居室に入るときは、必ずノックをして、「失礼します」と言葉掛けをしている。排泄失敗時には、他の職員と連携して、自尊心を気づけけない言葉掛けをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	小さな自己決定も見逃さないよう心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日をどのように過ごしたいか希望に添った援助に心がけ気付きとしています。又、意思表示できない方には、特に目配り、気配り、心配りを配慮します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしくすごせるように支援しています。訪問理美容をお願いしたり、希望があれば職員が散髪を行い、信頼関係を深めるよう役立てています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜を取り入れたり、ご利用者の意見を参考に献立を立てます。イベント、誕生会には特別メニューで喜ばれています。	食事は三食手作り。メニューを毎日手書きしたり、口頭で伝えたりしている。利用者一人ひとりに合わせた形状にして、塩分を調整しているので残食はなく、おかわりを希望する方もいる。食事中はBGMを流していて、ゆったりと落ち着いた雰囲気、利用者からは「美味しい」の一言が聞けた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人の摂取量は、その人に合った状態を把握しています。又やわらかいもの、細く刻み、とろみを付けその人に合った調理方法をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、うがい、手洗い等援助を行っています。義歯洗浄剤にて殺菌を行い、口肉炎、歯肉炎等の発生を防いでいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期誘導の他に、その人々に合った声掛けや誘導を行い、排泄による失敗の軽減を図ります。	排泄チェック表を活用し、便が出てない方へは、牛乳や薬、運動でコントロールするようにしている。立ち歩いた際に、さりげなくトイレ誘導を行ったり、歯磨きの際に、連れて行ったりするように工夫している。トイレの時間も長めにゆっくりと座って頂くように配慮していて、自分からトイレへ行かれる方も半数以上おられる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で職員全員が把握して適切に行っています。意思表示が出来ない方は、排泄チェック表を見ながら、飲食物の工夫を行ったり、腹部マッサージを行い、自然排泄を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングや楽しめる工夫をしています、個々で曜日、時間帯に合わせた支援はできていません。	週2～3回の提供。入浴を拒否される方へは、日時を変えて対応し、「一緒にいいところよう」や「ニューヨークへ行ってお土産買って来よう」と言葉掛けたり、職員が草津温泉の歌を口ずさんだりして誘導している。入浴時間は平均で30分程度。入浴中に普段会話が少ない方が、開放的になり雑談で盛り上がることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠、休息に関してご本人の気持ち、思いに配慮できるよう心がけています。体に乾燥肌、発疹等があり、電気毛布が使えない方、湯たんぽを使用してもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬、説明書を職員全員が把握できるように配置しています。個人の服用中の薬、説明書はいつでも解かるように所定の場所に置いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割やより多く楽しみごとを見付けられるよう心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人の要望、その人に合った外出支援を行っています。法事、墓参り、外食等ご家族と協力して行われています。(コロナ禍では中止していましたが、R6.6より外出制限を解除しています)	毎日の散歩が日課となり、気候の良い日には、ベンチで日向ぼっこをされる方もいる。コロナ5類以降は、家族との外出も可能になった。秋には、自然環境公園へドライブへ行き、紅葉を鑑賞した。春には、近隣の並木道へ足を運び、満開の桜を鑑賞して、おやつを食べた。家族の方も一緒に参加できて喜んで頂けた。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望でお金の所持、買物等は支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望で、自由に電話、手紙等の支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生け、居心地のよい空間づくりに心がけ湿度・温度には、快適に過ごせるよう、見えよいところに貼り付けています。	リビングには、アジサイの作品が飾られていて季節感を味わえるようにしている。利用者の写真を飾ることで、アットホームを演出している。テレビ、クロスワード、読書、編み物、お手玉、日記を書いて自分の好きな時間を過ごしている。午前中は、ティータイムとレクリエーション活動、午後は歌のDVDを流してニュースを観るのが日課となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	穏やかにのんびりとすごせるように心がけ、音楽を流したりしています。長椅子に座り、思い思いに過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に慣じみの品物を持参下さるように説明します。茶碗、箸、お椀、コップは、ご本人に気に入ったものを持参願います。	ベッド、エアコン、カーテン、クローゼットが備え付け。仏壇や家族の遺影を飾り、毎日お祈りをして家族を忍んでいる。家族の手作りフォトフレームを大切に飾っている方もいた。居室では、テレビや読書をしたり、日記やお化粧をしたりしている方もいる。家族との外出に向けて、服のしわを丁寧にのばしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人に合った環境づくりに心がけています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				